

正信偈和讚

和書門	類	函	架	號	冊
	類	函	架	號	冊
	類	函	架	號	冊
	類	函	架	號	冊
	類	函	架	號	冊
	類	函	架	號	冊

特59

305

東京圖書

018144-000-9

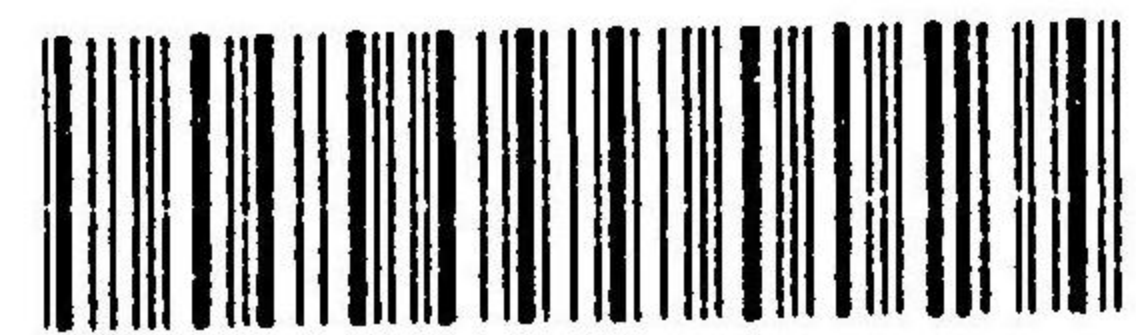
特59-305

正信偈和讚

本城 小兵衛 / 編

M11. 3

ABF-1253



在 <small>ま</small>	法 <small>ほ</small>	南 <small>な</small>	歸 <small>く</small>
世 <small>せ</small>	藏 <small>ざう</small>	无 <small>む</small>	命 <small>めい</small>
自 <small>じ</small>	菩 <small>ぼ</small>	不 <small>ふ</small>	无 <small>む</small>
在 <small>ま</small>	薩 <small>さつ</small>	可 <small>か</small>	量 <small>りやう</small>
王 <small>わう</small>	回 <small>かい</small>	思 <small>し</small>	壽 <small>じゆ</small>
佛 <small>ぶつ</small>	位 <small>い</small>	議 <small>ぎ</small>	如 <small>にょ</small>
所 <small>しよ</small>	時 <small>じ</small>	光 <small>くわう</small>	來 <small>らい</small>

掌 中
正信偈和讚

改正章句附 報恩講和讚
御文三誓偈改悔 真宗御代々記

京都書林 二書堂版



超こ發はつ希け有う大だい弘くわ誓げん
建けん立たつ无む上じやう殊しゆ勝しやう願げん
國こく土と人にん天てん之し善ぜん惡あく
覩と見けん諸しよ佛ぶつ淨じやう土ど因いん

五ご劫こつ思し惟かひ之し攝せつ受じゆ
重じゆう誓げん名な聲しやう聞もん十じゆう方ぽう
普ふ放たう无む量りやう无む邊へん光くわう
无む尋げん无む對たい光くわう炎えん王わう

清淨歡喜智慧光
不斷難思无稱光
超日月光照塵刹
一切羣生蒙光照

正二

本願名號正定業
至心信樂願為因
成等覺證大涅槃
必至滅度願成就

如來所以興出世
唯說彌陀本願海
五濁惡時羣生海
應信如來如實言

能發一念喜愛心
不斷煩惱得涅槃
凡聖通謗齊迴人
如衆水入海一味

攝取心先常照護
已能雖破无明闇
貪愛瞋僧之雲霧
常覆真實信心天

譬如日光覆雲霧
雲霧之下明无闇
獲信見敬大慶喜
卽横超截五惡趣

一 切 善 惡 凡 夫 人
聞 信 如 來 弘 誓 願
佛 言 廣 大 勝 解 者
是 人 名 分 陞 利 華

正五

彌 陀 佛 本 願 念 佛
邪 見 憍 慢 惡 衆 生
信 樂 受 持 甚 以 難
難 中 之 難 无 過 斯

印度西天之論家
中夏日域之高僧
顯大聖興世正意
明如來本誓應機

釋迦如來楞伽山
爲衆告命南天竺
龍樹大士出於世
悉能摧破有無見

宣せん說せつ大だい乘じょう无む上じょう法ぽう
證しやう歡くわん喜き地ぢ生じやう安あん樂らく
顯けん示し難なん行ぎやう陸りく路ろ苦く
信しん樂らく易い行ぎやう水すい道だう樂らく

正七

憶おく念ねん彌み陀た佛ぶつ本ほん願げん
自じ然ぜん卽じつ時じ人じん必ひつ定ぢやう
唯ただ能のう常じやう稱じやう如に來らい號ごう
應おう報ぽう大だい悲ひ弘くわん誓せき思し

天親菩薩造論說
歸命无身光如來
依修多羅顯真實
光闡橫超大誓願

正八

廣由本願力廻向
爲度羣生彰一心
歸人功德大寶海
必獲入大會衆數

得至蓮華藏世界
卽證眞如法性身
遊煩惱林現神通
入生死菌示應化

上九

本師曇鸞梁天子
常向鸞處菩薩禮
三藏流支授淨教
焚燒仙經歸樂邦

天親菩薩論註解
報土曰果顯誓願
往還廻向由他力
正定之曰唯信心

正十

惑染凡夫信心發
證知生死即涅槃
必至无量光明土
諸有衆生皆普化

道綽決聖道難證
唯明淨土可通入
萬善自力取勤修
圓滿德號勸專稱

正十一

三不三信誨慙懃
像未法滅同悲引
一生造惡值弘誓
至安養界證妙果

善導獨明佛正意
矜哀定散与通惡
光明名號顯曰緣
闕入本願大智海

正十二

行者正受金剛心
慶喜一念相應後
与韋提等獲三忍
卽證法性之常樂

源信廣開一代教
徧歸安養勸一切
專雜執心判淺深
報化二土正辨立

正十二

極重惡人唯稱佛
我亦在彼攝取中
煩惱彰眼雖不見
大悲无倦常照我

本師源空明佛教
憐愍善惡凡夫人
真宗教證興片州
選擇本願弘惡世

正十四

還來生死輪轉家
決以疑情爲所止
速入寂靜无爲樂
必以信心爲能入

法華三昧

●	●	●	●	●
南	南	南	南	南
无	无	无	无	无
阿	阿	阿	阿	阿
弥	弥	弥	弥	弥
陀	陀	陀	陀	陀
仏	仏	仏	仏	仏

初重
ヨムニ
リホ

唯	道	拯	弘
可	俗	濟	經
信	時	无	大
斯	衆	邊	士
高	共	極	宗
僧	同	濁	師
説	心	惡	等

一 彌陀成佛のこのかたなり
 いまふ十劫とへしまり
 法身の光輪きいもま
 下世の盲冥びてらきあり

和十六

南無阿彌陀仏
 南無阿彌陀仏
 南無阿彌陀仏
 南無阿彌陀仏

● 南^一无^一阿^一弥^一陀^一仙^三
 ● 南^二无^一阿^二弥^一陀^三仙^三
 ● 南^二无^一阿^二弥^一陀^三仙^三
 ● 南^二无^一阿^二弥^一陀^三仙^三

和十八

解脱^ガの光^ク輪^{リン}き^キ念^ニな^ナ

光^ハ觸^{ツク}か^カふ^フる^ルもの^ノハ^ハみ^ミあ^ア

有^ウ无^ムを^ヲえ^エな^ナる^ルとの^ノズ^ズま^マ入^ニ

上^ウ平^{ヘイ}等^{トウ}覺^{カク}見^ミ又^{マタ}歸^キ命^{メイ}せ^セよ^ヨ

南^ニ无^一阿^ニ弥^一陀^ニ仏^一
 南^ニ无^一阿^ニ弥^一陀^ニ仏^一
 南^ニ无^一阿^ニ弥^一陀^ニ仏^一
 南^ニ无^一阿^ニ弥^一陀^ニ仏^一
 南^ニ无^一阿^ニ弥^一陀^ニ仏^一

和十九

光^{ミツ}雲^{クモ}无^ム尋^{ゾク}如^ニ虚^ニ空^ニ

一切^{イツゼツ}の有^ユ尋^{ゾク}不^フさ^サり^リ形^{ケイ}

光^{ミツ}澤^{タク}か^カふ^フら^ラぬ^ヌの^ノそ^ソふ^フた^タ

上^{ウエ}難^{ナン}思^シ議^ギ以^ニ歸^ニ命^ニせ^セよ

三重

● 南	● 南	● 南	● 南
无	无	无	无
阿	阿	阿	阿
弥	弥	弥	弥
陀	陀	陀	陀
仙	仙	仙	仙

● 南	● 南	● 南	● 南
无	无	无	无
阿	阿	阿	阿
弥	弥	弥	弥
陀	陀	陀	陀
仙	仙	仙	仙

清淨光明あまらびなり

遇斯光のゆゑおきごと

一切の業繫るものぞこゝろぬ

下 畢竟依を歸命せよ

和二十

南無阿彌陀仏

南無阿彌陀仏

南無阿彌陀仏

南無阿彌陀仏

南無阿彌陀仏

佛ぶつ光くわう照しやう曜えう寂じやく第だい一いつ

光くわう炎えん王わう佛ぶつとあつけたま

三さん塗ぬの黒くろ闇あんひらくた

中ちゆう大だい應えう供くわう持ぢ歸き命めいせよ

和歌三

往わう同どう平へい願げん
生せい發はつ等とう以い
安あん菩ぼ施せ此こ
樂らく提だい一いつ功くわう
國こく心しん切せつ德とく

引ひお

二道ぢう光明くわうめい朗超らう絶ぜつせり

清淨じやうじやう光佛くわうぶつとまろすり

ひとたびひとたひ光照くわうざうかふるりの

中業ぢうごう垢くとのぞくのぞく解脱げだつせり

和サ三

ト 慈光じくわうをるかふるをるかふるむらり

ひるまひるまぬらぬらるるるるらるらる

法喜ほふきとらうとらうとぞとぞのぶのぶたまたまふ

中 大安だんあん慰い成じやう歸き命めいせよ

无明むみやうの闇くらみを破やぶするゆ
入いれ智慧ちゐ光佛くわうぶつとあづけり
一切いっけつ諸佛しよぶつ三乘さんじやう衆しゆ
上うへどもに嘆なげ譽よほまじまじ

和并四

光明くわうみやうてらうくたぐれを
入いれ不斷ふたふた光佛くわうぶつとあづけり
聞き光力くわうりきのゆへあまを
上うへ心こころ不斷ふたふたりて往むかひ生なまきて

佛ぶつ光くわう測そく量りやうふふききめめふふ
 難なん思し先せん佛ぶつととああづづみみららりり
 諸しよ佛ぶつのの往わう生じやう嘆たんトト？
 下げ弥み陀たのの功く徳とくとと稱しょうせせふふむむ

和わ廿に五ご

神かみ光くわうのの離り相さうととああづづみみららりり
 无む稱しょう光くわう佛ぶつととああづづみみららりり
 曰いは光くわう成じやう佛ぶつののひひららりりををああづづみみららりり
 中ちゆう諸しよ佛ぶつのの嘆たんととああづづみみららりり

光明月日勝過しと

超日月光とあづけり

釋迦嘆とてなとつた

上 无等々と歸命せよ

和廿六

弥随初會の聖衆ハ

筭數のおよぶこととた

淨土と縁がらんひとみま

下 廣大會哉歸命せよ

安樂あんらく 无量むりやうの大菩薩だいぼさつ

一生補處いっしょうくちよにりりるなり

普賢ふけんの徳とくに歸きしところ

中穢ちゆうたひ國くにふかきりごと化くわするあり

和共七

十方衆生じふぱうしゆじやうのためにと

如來にょらいの法藏ほふざうあめめで

本願ほんがん弘誓くわうせいの歸きせしむる

中大心ちゆうだいしん海城かいじやう歸き命めいせよ

觀音勢至の所とる小

慈光世界を照曜

有緣哉度してきざる

下 休息あやこくあうりけま

和共八

安樂淨土にらるる

五濁惡世ふかへま

釋迦牟尼佛のどく

下 利益衆生へきりも

神しん力りき自じ在ざいあること

測そく量りやうとてつたことなき

不ふ思し議ぎの徳とくとあつやう

上じやう无む上じやう尊そん哉の歸き命めいせよ

和わ杖じやう九く

安あん樂らく聲せう聞もん菩ぼ薩さつ衆しゆ

人にん天てん智ち慧ゑやううか

身しん相さう莊じやう嚴げんみまおあ

中ちゆう他た方はうに順じゆんとて名なとつぬ

顔容端政たぐひあり
精微妙軀非人天
虛无之身无極體
上平等力と歸命せよ

和三十

安樂國は糸がふしと
正定聚にこそ住まはる
邪定不定聚くあらず
上諸佛讚嘆したまへり

十方諸有の衆生じふほうしようのしゆじやう

阿彌陀至徳の御名あまたいしとくのみなをき

眞實信心しんじつしんじんのりたま

上うへおるゑ所聞よかんを慶喜ききせん

和三十

若わか不生者ふしやうのちうしゆ

信樂しんがくまこといふこと

一念慶喜いんねんききとるひや

中ちゆう往生おうじやうかゝるかゝるゆゑに

安樂佛土の依正と

法藏願力のあせらるる

天上天下にたぐひぬ

中大心力成歸命せよ

和州二

安樂國土の莊嚴へ

釋迦无碍のみにて

とくともつたどりのまま

上无稱佛成歸命せよ

己今當の往生と

この土の衆生のと

十方佛土より

上无量无数不可計あり

和州三

阿弥陀佛の御名と

歡喜讚仰せしむ

功德の寶具足し

下一念大利无上あり

たとひ大千世界ごせんせかいニ

みてもらん火ともさぶらゆきと

佛ぶつの御名ごな成なりきくひとと

上うへちうく、不退ふたいふかちのふさり

和州四

神力しんりき无極むごくの阿弥あみ随ずいハ

无量むりやうの諸佛しよぶつ不ふめたまふ

東方とうほう恒沙こんさの佛國ぶつこくより

中ちゆう无む數すうの菩ぼ薩さつゆゆ久くまま

自餘の九方の佛國も

菩薩の往觀みるおなり

釋迦牟尼如來偈をよみて

中 无量の功德を不めたまふ

和州五

十方の无量菩薩衆

徳本うんためふとて

恭敬とくく歌嘆を

中 みるひと婆伽婆を歸命せよ

七寶講堂道場樹

方便化身の淨土あり

十方來生きはもなり

中講堂道場礼とへ

和卅六

妙土廣大超數限

本願莊嚴よろどころ

清淨大攝受

下 誓首歸命せむべし

自利利他圓滿
 歸命方便巧莊嚴
 不可思議尊
 中 不可思議尊と歸命せよ

神力本願及満足
 明了堅固究竟願
 慈悲方便不思議
 真无量劫歸命せよ

五で十六ろく億おく七しち千せん萬まん

彌えい勒りく菩が薩さつののととももん

ままここのの信しん心しんろろののひひとと

ここののびびびびととももんん

念ねん佛ぶつ往りやう生じやうのの願がんににようよう

等とう正しやう覺がくににいたいたるるひひとと

ままををへへちち彌えい勒りくののおおななどどくくてて

大だい般ぱん涅ねつ槃ぱんををささくくるるべべいい

眞實信心うるゆへ

さくたへち定聚不入ぬま

補處の弥勒におま

无上覺をさくくる形

和州九

像法のと人の智人も

自力は諸教とはおま

時機相應の法あは

念佛門にぞつたま

彌陀の尊號とをん

信樂まことなるをよん

憶念の心は終ましく

佛恩報むるおめしあり

五濁惡世の有情の

選釋本願信とをん

不可稱不可説不可思議の

功德ハ行者に身ふみたり

● 本師龍樹菩薩ハ

智度十住毘婆娑等

法くアておろく西をほめ

とて念佛せしめり

和四十二

南天竺に比丘あらん

龍樹菩薩とふはく七

有無の邪見を破すと

世尊はう終てやんまふ

本師龍樹菩薩

大乘无上の法ととき

歡喜地と證すとぞ

念ん佛ぶつとめらる

和四十二

龍樹大士世のぞ

難行易行の道ねし

流轉輪廻のころらとぞ

弘誓此ののせたまふ

本師龍樹菩薩の

おくとはきんひと

本願心にうけめて

は弥又弥陀と稱じ

不退れとみや

多んとおもひ

恭敬の心に執持

弥陀の名を稱じ

御 日 中

● 南无阿弥陀佛の廻向の

恩徳廣大不思議にて

往相廻向乃利益れん

還相廻向亦廻入せり

和四十四

往相廻向の大慈より

還相廻向は大悲なり

如来乃廻向おくりせむ

浄土の菩提の果を見

彌陀觀音大勢至

大願のあひ小乘しごと

生死のうみぬらうまはく

有情のよがうへのせんま

和甲五

彌陀大悲の誓願哉

ふく信せんしとらみあ

糸くもあてもへたんき

南无阿彌陀佛とてまのぼ

他力に信心するは我

らやまじおんまふよろこび

さまよふちりうが親友ぞと

教主世尊のあたま

和四六

如來大悲の恩徳へ

身成務りても報ぐべし

師主知識乃恩徳も

あのごころみても謝と返す

我説彼尊功德事。○世尊我一心
 衆善無邊如海水。歸命盡十方
 所獲善根清淨者。無尋光如來
 廻施衆生生彼國。願生安樂國

未代无智の在家止任の男女たらん
 ともがくはくろとひとくはくして阿弥陀
 佛とふくたのこまのせとさく次餘のこ
 へあゆとふくはく一心一向は佛なとひまを
 まくまん衆生たぐくく罪業ハ深重く
 ともうのくす弥陀如來とくひまを

べしこれと云ふも第十八の念佛往生の誓願
此の事やうかへるごとく決定と云ふも
縁もさへてよりのちのあはれんがうへ
稱名念佛と云ふ所のあなをしく
それ八万法藏と云ふ所のよきも後世と

文四十八

考ふる人々愚者と云ふも一文不知の
尼入道ありと云ふも後世成智者
と云ふ所の當流のこころにある
がらよめはくは聖教と云ふみの成る
たうと云ふも一念の信心はつれと云
が衆人からう事ありと云ふも

聖人の御まごころも一切は男女たゞん身の
弥陀此本願を信ぜば一と云ふ事なまする
とらふとらざるはとあるやうな事なりと云
ゆへにわが女もありとらざるもなまするの
雑行をさして一念の弥陀如來今度の
後生にまごころを申さん

文四十九

人八十人も百人もあつても弥陀の報に
往生さす事なまするはとらふ事なまする
うごかぬのちりあるか

夫在家に尼女房たゞん身もあまの事
も形く一心一向の弥陀佛とまごころ

まのくもて後生ごきやうとなさけを申まうさん
人ひとぶまみく御おんまけあましくおのひ
よりてまゆけの心こころめくあまぐ
これさるち弥陀如来いごぶつにらふ御おんちの他力たうりた
本願ほんがんと申まう次つぎありとあまなを後生ごきやうの
たごころんよのうましくありぐこ

文五十

思おもうたご南无阿弥陀佛なむあみだぶつくを
まのくもてのちありあましく

抑おさ男子おとこも女人おんなも罪つみのあましく
諸佛しよぶつの悲願ひがんとたのまもまじ時分ときぶんの
未代みだい悪世あくよのち諸佛しよぶつの御おんちのち

かたむざる時あり是ありて阿彌陀如來
と申奉るる諸佛みとせれて十惡五逆の
罪人とせられしは人のく大願をおし
ましと阿彌陀佛と名り給へりこれ
佛と申したのて一念御まひ候へと申
さん衆生とせられしは守り正覺ありしと

文五十二

ちるひまは極と殊陀る念我等が極
樂に往生せんこと要するは此
ゆるみ心一向は阿彌陀如來たといひ給へ
とましく心まじむなく信じて我身の
罪のまじ事ごからちとて佛のみまを
はらせと一念の信はまの心にまじ

十人八十人百人以上百人以上
浄土は往生することた事
これより先きなくたうとておのひたえ
らん心のねとんとは南无阿弥陀佛
くときたの所もまきとん後
念佛申へてこととてまから佛恩報謝の

文五十三

念佛と申ありあまわしく

信心獲得とて六第十八の願とて
あつこの願とてあつこの南无阿弥陀佛
のまこととてあつこの南无と歸
命する一念たてあつ又發願廻向とて

あるはこころとまらぬも弘隆如來は凡夫の
 廻向一まはらむとあるなりこれと大經
 ハ令諸衆生功德成就とつけまらぬ
 无始以來はくるとつくる惡業煩惱と
 るところもなく願力不思議とめりく消
 滅とらむもゆるゆる不正定聚不退の
 一
 一
 一

お不任とありこれまらぬと煩惱と断せん
 志て涅槃界なりとゆるるこのてはゆる此義
 當流一途の取談るものなり他流の介
 對してかくれど沙汰あるまらぬとる取あり
 能くあらざるものありとる一とく

聖人一流の御勸化はありしきる信心は
りて本とせしき候その申しをりての
雑行と云ひさして一心は弥陀に歸命と
ふか不可思議の願力とて佛のく
より往生の治定せしめたるそのくを
一念發起入正定之聚とも釋しそのくは

稱名念佛ハ如來より往生とておなじ
御恩報盡の念佛とてくくくく
あふら〜

抑當流の他方信心はありしきる
同じく決定せしめたるその信心の

通とほせりて心しん底てい亦またあはれなく他宗たそう他宗たそう亦またあはれなく
 對たいして沙汰さたまじりて路次ろじ大道だうだうこれ
 く此こゝ在ざい取とるもあはれなく人ひとをむんぢりしず
 これと讚嘆さんたんまじりて守護しゆご地頭ぢとう方かた
 にあはれあはれ信しん心しんとえりてしりて疎畧そりやく
 の儀ぎあはれなく公事こうじまじりて又また

文五十五

諸神しよじん諸佛しよぶつ菩薩ぼさつもあはれなく
 こゝに南无なんむ阿弥陀佛あみだぶつの六字ろくじあはれなく
 あはれなく外あひ王法おうぼうとあはれなく
 おもて内ない心しんえ他た力りき此こゝ信しん心しんとあはれなく
 世間せけんの仁義にぎぎとあはれなく本ほんとあはれなく
 から當流たうりゆうよまじりての徒たのあはれなく

をうりつてみきく退散せりこれハ
佛法此本意をきくくくぐる次第
ありらふも不信心の面への二段の不審
をもたてて信心れ有牙と沙汰とて
とるふららの所詮もゆく退散せしむ
条きくくかへおつてんごのあきく

思案とちぐくひてんこあり所詮
自今已後よとてん不信心の面へあ
たぐひは信心れ讚嘆あつてんと肝
要あり

そま当流の安心れともちてんこ
あるうちふくご身罪障のあつて

とくづきまをめぐの難行のころぞ
や先て一心の阿弥陀如来に歸命して
今度の一大事此後生たさむことを
あくたのまん衆生とてくたなむ
たまふてのたまふにまじりあるべ
うづかむとてくたなむ

文五十八

まよふ百即百生あるまじりあり
りき毎月の寄合はまじりも報恩
謝徳のた多とてくたなむを眞實の
信心と具足せしめたる行者もあは
づかむのちりあはし

明應七年二月廿五日書之

毎月兩度講衆中へ
八十四歳

夫人間の浮生なる相とらしく觀ざるに
おふそんうあたりのこの世の始中終
ははらひのごとくある一期ありされど

文五十九

万歳の人身残らけらるゝ事なきぞ
一生まじやと一しのみあつて
たまる百年は形骸をたのむべし我や
きた人もさきけりとも志ぶるあはれも
あはれとくれきりて人なきよのど
まへの霞よりもまげしとらされ

朝あさも紅こう顔がんありて夕ゆふも白はく骨こつとるは
身みなりまじで亦また无む常じょうは風かぜきくぬき
まじらふまじらふのまふこちまぢまぢぢ
むしめらるゝぬぐたえぬきハ紅こう顔がんむ
まじ變へんどく桃もも木き子こはまじらふまじらふ
ぬるまじハ六ろく親しん春はる属しゆありまじらふまじらふ

かまきぬきも夏なつもその甲かみ斐ひありまじらふ
まじらふもまじらふ事こと形かたちぬきまじらふ野の外がひ
亦またまじらふ夜よ半はんはけけけまじらふまじらふ
ぬきまじらふ白はく骨こつのまじらふまじらふ
中なかつまじらふまじらふまじらふ人間にんげんのまじらふ形かたち死し
事ことハ老らう少せう不ふ定ぢょうのまじらふまじらふまじらふ人ひと

るや後生の一大事哉心かひて阿弥
陀佛とありきたのともまのくせく念佛
はうすぢがぬれありあなるしく

抑當國摂州東成郡生玉の庄内
大坂とらふ在所ハ往古よりあり

約東のけりけりやまぬる明應第五の
秋下旬はあつりかりそあやうこと
在所とみとありよるよるにせむく
一字の坊舎を建立せしめ當年の
とぞふ三年に歳霜とくへん
すゑんち往昔の宿縁もていなる
因縁

おろしとおびくんとんぶらぬをれあつたこの
 在所きよたの居住ませしむる根元こんげんのあるかち不生しんじやう
 涯げんとあつたをくすじ榮花えいけ榮耀えいよく哉
 ことばをまゝ花鳥風月かきうふうげつもころろとよめ
 ありれ無上むじやう菩提ぼだいのためゆゑ信心決定しんじんけつぎやうの
 行者ぎやうじやも敏赤たんにやく昌しやうせしめ念佛ねんぶつもまろくえん

ともづゝも出来しやうらいせしむるゆゑぬるまじと
 おりふ一念いちねんれあつたげとほとよをうらうり
 まゝにまゝも世間せけんの人ひとをんども偏執へんじやくの
 やうもつらむじた題目だいめいあんども
 出来しやうらいあつんとたへたみやうふこれ在所きよたの
 といて執心しやくしんのこゑをやめて退出しゆしやうせしむる

ものやうこれよまうてらむく貴賤道俗を
多々ぞん金剛堅固の信心を決定せしめん
あまよふ弥勒如来の本願をあひうあひ
別しての聖人の御本意ふたごあひあひ
もの教それふつて愚老よまよふ當年ハ
八十四歳まで存命せしむる条不思議あり

まよふ當流法義にもあひかると教れ
あしご本望のらむもよまよふさうくうら
りの教志をねが愚老當年共夏ころより
遠例をてあてしすよまよふ本復のとき
これねーはらむ當年寒中ひかむ
往生の本懐ととくぞる条一定とおもひ

人へのあはれきく存命のちまみく
 信心決定の目かしと朝夕あひはんぐそ
 まとふ宿善まるとふひさぐ述懐の
 ころ後まぐくもあむこちまーまふこれ
 在所小三年は居住とふその甲斐
 おりごころひさまふへの二十七日

文六十四

報恩講のころらふといて信心決定ありて
 我人一同小往生極樂は本意とわけ
 たまふためのまあまふようこく
 明應七年十月廿一日よりはじめて
 こころはよみく人への信とて
 だれたものあり

そまじ五劫思惟の本願とらふも兆載永劫
修行とらふもたゞ我等一切衆生を何あぢ
小たまけ給らんがく免乃方便たうづん阿弥陀
如来御辛勞ありと南无阿弥陀佛とふ
本願ほんがんなとましくてまよひの衆生の
一念いちねん阿弥陀佛とたのまふとまらぬ

難行とまじ一向一心いっしん阿弥陀とたのまふ衆
生なたまけずんがられ正覺ありとまらぬ
給ひと南无阿弥陀佛とまらぬ
あられすまらち我等がやと極樂ごくらく往生じやうじやう
すまらぬとまらぬとまらぬとまらぬ
南无阿弥陀佛の六字ろくじ乃とまらぬ一切衆生乃

報土ひょうどに往生じやうじやうすべしとすべしありとのたまふ
 南无なむと歸命きめいとまじりて阿弥陀佛あみだぶつの我われ
 寺てらにたすけしとすべしとすべしとありとのたまふ
 南无なむの二字にじの衆生しゆじやう乃すなはち弥陀如来あみだぶつの
 たるまうりて後生ごじやうたるまうりてまうり
 ありとありと一ひとかたに阿弥陀あみだとありとありと

さすはくひのたまふとすべしと阿弥陀佛あみだぶつの四字しじ
 のまじりてありとのたまふとのたまふ
 これよりのそりたる十惡じゆあく五逆ごぎやく三從さんじゆう此こゝ
 女人にょにんありとのたまふとのたまふの雜行ざぎやうはすべし
 ひまう後生ごじやうたるまうりてまうりてまうり人ひと
 たるまうりて十人じゆにんもありと百人ひゃくにんもありとあり

しびへんふんてんたててまじりて
おもひまはらうしびひなく信ぜん輩を
眞實乃弥陀の浄土小往生まじりもの
ちりあまうし

當流の安心まんしんけ一義いつぎなりつたる南无阿弥

陀佛乃六字のそと後をりたへん南无と
歸命きめいまじりて阿弥陀佛のそとけな
つらうまらうぶゆえは南无の二字の歸命
のそとあり歸命とあり衆生ののそとあり
の雜行ざうぎやうをまじりて阿弥陀佛後生ごうじやうたすけ
へ一向いこうふたのそと後をりたへん

ゆきし衆生とてまじき彌陀如来のまじ
きをいふはまじき事なりはたしなむるは
ふよりて南无とたのむ衆生は阿弥陀佛に
たまはせしむるは道理なりはたしなむるは
陀佛の六字なりすべしはたしなむるは一切
衆生に平等ふたなりはたしなむるは

文六十八

まじき事なりはたしなむるは他力の信心なりは
たしなむるはまじき事なりはたしなむるは南无阿弥陀佛に六
字のまじき事なりはたしなむるは一切の聖教と
なりはたしなむるは南无阿弥陀佛に六字に信ぜ
るんがまじき事なりはたしなむるはありとおも
ふ事なりはたしなむるは

抑^{おさ}の御正忌^{ごせいぎ}乃^なうちふ参詣^{さんぎ}といふ
あつらひて^{あつらひ}報恩^{ほうおん}謝徳^{しゃとく}をおとせ
おのひそ^{おのひそ}聖人^{せいじん}乃^な御ま^ごくおま^まつらんひよ
あつらひて^{あつらひ}信心^{しんぴん}を獲得^{かくとく}せしあつらひて
あつらひて^{あつらひ}まこと不信^{ふしん}の^のあつらひて
あつらひて^{あつらひ}大事^{だいじ}ありそのあつらひて^{あつらひ}信心^{しんぴん}を

決定^{けつぎ}せむ^{せむ}今度^{こんど}は報士^{ほうし}の往生^{おうじやう}の不定^{ふぢやう}あり
まこと不信^{ふしん}の^のあつらひて^{あつらひ}決定^{けつぎ}乃
あつらひて^{あつらひ}人間^{にやうかん}の不定^{ふぢやう}のあつらひて^{あつらひ}
極樂^{ごくらく}の常住^{じやうぢやう}は國^{くに}を^をあつらひて^{あつらひ}不定^{ふぢやう}の人^{ひと}
間^まあつらひて^{あつらひ}よつらひて^{よつらひ}常住^{じやうぢやう}の極樂^{ごくらく}を^をあつらひて^{あつらひ}
あつらひて^{あつらひ}當流^{たうりゆう}の^の信心^{しんぴん}の^のあつらひて^{あつらひ}

たゞ念佛ねんぶつの行者ぎやうじやといふまゝならんまじつに何あらず
そまじ一切いっさいの女人にょにんに身みの後生ごうじやう故ゆゑ大事だいじ小
おもひ佛法ぶつぽうをたゞしくわりの心こころあらざ
あふのやうもたゞしく阿弥陀如来あまたらたにらうらいとまじ
しるす事ことをなすはまじの難行なんぎやうなるべし

和七十三

まじし一心いっしんは後生ごうじやう故ゆゑ御おんたまけ候まうと
ひとたのやうに女人にょにんにかあはば極楽ごくらく小往せうわう
生なます事ことをなすはまじの難行なんぎやうなるべし
おもひなりとのひまじし阿弥陀如来あまたらたにらうらいの
あましく御おんたまけおあはばまじし事ことに
あはばまじし又またたゞまじし信しんと

て終つてもてんてんも南无阿弥陀佛く
と申まをすてんてんをりちんてん信しんんてん
念佛者ねんぶつしやと申まをすてんてんをりちんてん
當流聖人たうりゆうせいじんのちんてんてんてんてん
あふのちんてんてんてんてん我身わがみはてんてん

文七十三

てんてんてんてんてんてんてんてんてん
雑行ざうぎやう雑修ざうしゆ乃てんてんてんてんてん
阿弥陀如来あみだにょらい後生ごせいたきんてんてん念ねんふ
あふたのちんてんてんてんてんてん
十人じゅうじんの十人じゅうじん百人ひゃくじんの百人ひゃくじんあがらまふちんてん
たふちんてんてんてんてんてんてんてん

ざらむものちりかやうふよくとらうえたる人
誠信心まことこころ乃すなはち行者まことこころとらふありてんそのうしよ
あは我身わがみの後生ごうせいれたるうしん事こと乃
うれしとておもひてんまはるまはるまはる
とてえとくと南无阿弥陀佛なむあみだぶつくととてあふ
づいものちりかやうしん

誓ちか斯か必かならず我わが
不な願げん至いた建た三さん
成じやう不な無む超ちやう誓ちか
正じやう満まん上じやう世せ偈ぎ
覺かく足そく道だう願げん

淨離誓究名
惠欲不竟聲
修深成靡超
梵正正所十
行念覺聞方

我誓普不我
至不濟爲於
成成諸大無
佛正貧施量
道覺苦主劫

廣濟衆厄難
開彼智惠眼
滅此昏盲闇
閉塞諸惡道
通達善趣門

志求無上道
爲諸天人人師
神力演大人光
普照無際土
消除三垢冥

廣く常と說せう供く具ぐ
施せ於お法ほふ養やう足そく
功く大だい師し一いつ衆しゆ
德とく衆しゆ子し切せつ德とく
寶ほう中ちゆう吼こう佛ぶつ本ほん

功く威い日にち天てん爲ゐ
祚そん曜やう光くわう衆しゆ
成じやう朗らう戢じ開かい
滿まん十じゅう重じゆう不ふ法ほふ
足そく方ほう暉き現げん藏ざう

當虛大斯等
雨空千願此
珍諸應若最
妙天感尅勝
華人動果尊

願通如得願
我達佛爲惠
功靡無三悉
惠不礙界成
力照智雄滿

改悔文

もろくくの雑行雑修自
かたきを多きをふりて一心に
阿弥陀如来我等が今度
乃一大事の後生御し候
候へとたためそりて候

たのむ一念の往生一定
御助け治定とせんども
乃稱名の御恩報謝とせん
よめとまへ候あめ御と
こり聴聞候
御開山聖人御出世御恩

次第相叅の善知識の御思あり
 ざん御勸化御思あり
 候の御思あり
 一期の御思あり
 まりの御思あり

ゲ八十

太子七高僧之御忌日并真宗御代々之御忌日
 聖德皇太子 推古天皇廿九年二月廿一日
 龍樹菩薩 十月十八日 天親菩薩 三月三日
 曇鸞和尚 五月廿六日 道綽禪師 四月廿七日
 善導大師 三月廿七日 源信和尚 六月十日
 源空上人 建曆三年正月二十五日
 親鸞聖人 弘長三壬戌年十月廿八日 満九十歳
 二 如信上人 正安二年正月四日 化 六十四歳
 三 覚如上人 觀應三年正月十九日 化 八十三歳

四	善	如上人	康曆元年二月廿九日	五十七歲
五	綽	如上人	明德四年四月廿四日	四十四歲
六	巧	如上人	永享十一年十月十四日	六十五歲
七	存	如上人	長祿元年六月十八日	六十二歲
八	蓮	如上人	明感八年三月廿五日	八十五歲
九	實	如上人	大永五年二月二日	六十八歲
十	證	如上人	天文三年八月十三日	三十九歲
十一	顯	如上人	文祿元年十月廿四日	五十歲
十二	准	如上人	寬永七年十月廿四日	五十四歲
十三	良	如上人	寬文二年九月七日	五十一歲

代八十一

十四	寂	如上人	享保十年七月八日	七十五歲
十五	住	如上人	元治四年八月六日	六十七歲
十六	湛	如上人	寬保元年六月八日	二十七歲
十七	法	如上人	寬政元年十月廿四日	八十三歲
十八	文	如上人	寬政十年六月十四日	五十六歲
十九	本	如上人	文政九年十一月十一日	四十九歲
二十	東	如上人	慶長十九年十月五日	五十七歲
二十一	教	如上人	萬治元年七月廿五日	五十五歲
二十二	琢	如上人	寬文二年四月十四日	四十二歲

圭	常	如	上	人	元	祿	七	年	五	月	廿	日	化	五	十	四	歲	
共	一	如	上	人	元	祿	十	三	年	四	月	十	日	化	五	十	三	歲
去	真	如	上	人	延	享	元	年	十	月	二	日	化	六	十	三	歲	
大	從	如	上	人	寶	曆	十	年	七	月	十	日	化	四	十	二	歲	
去	乘	如	上	人	寬	政	四	年	二	月	廿	二	日	化	四	十	九	歲
平	達	如	上	人	慶	應	元	年	十	月	四	日	化	八	十	六	歲	

定價八錢

代八十二

明治十一年三月五日出版御霜
同年同月刻成

書

林

京都府平民

編輯並
出板人

本城小兵衛

下京第十二區西前埠
三百六十四番地

京都府平民

發賣人澤田友五郎

下京第十九區安通高倉東八
塩竈甲三百九十三番地

